

2016年5月11日

2015年度決算と2016年度経営計画について

 **新日本空調株式会社**
代表取締役社長 夏井 博史

1. 2015年度総括について

世界経済は、好調な米国経済が下支えとなり、緩やかながらも回復基調が続きましたが、年度後半には長年続いた金融緩和が終了するとともに、中国経済の減速傾向が顕著となる中、一昨年から始まった原油価格の低下が一段と進み、世界的な株価の乱高下等の不安定な状況が見られました。

一方、日本経済においては、緩やかな回復基調が継続し、企業収益は、円安や原油安の影響で、好調な業績となっているものの、設備投資には緩慢さが見られるとともに、個人消費も円安影響による食品等の価格の上昇により伸び悩みが見られ、なかなか回復局面が見えてこない状況で推移しました。

当建設業界におきましては、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催、首都圏での大型再開発、製造業の国内回帰等のなどが期待され、建設投資は活発になることが見込まれます。一方では、資機材の高騰、技能労働者・技術者不足、そしてそれらに伴う工期の遅れにより、厳しい状況が続いております。

そういった環境の中で、当社グループは中期経営計画の初年度であった2014年度における成果の一層の進展を目指し、「究極真価プラン2016」(2014～2016年度)の2年目の事業を運営しました。

この中期経営計画は、「地球環境を先導すべく、環境ソリューションカンパニーとして、顧客ニーズに応えたSNK品質の深化と進化で真価を極める」をキーワードとし、

- ① 顧客信頼度の究極真価
- ② 技術の継承と先進技術の訴求展開
- ③ コーポレートガバナンスの強化と機動力のある組織体制

という三つの基本課題を掲げております。

その2年目である2015年度ですが、受注工事高におきましては前期比5.3%増の1,061億3千9百万円と公表値の1,050億円をクリアし、目標値を達成しました。

完成工事高につきましては、公表値1,000億円の達成にはわずかに届きませんでしたが、前期比12.5%増の973億2千9百万円となり、概ね目標を達成することが出来ました。一方で

手持ち工事量は大幅に増加し、グループ全体の次期繰越工事高は 88 億 9 百万円増の 730 億 6 千 1 百万円となりました。

利益面におきましては、受注環境が堅調に推移したことと、グループ全体での固定費削減努力を徹底した結果、完成工事総利益は、前期比 18.3%増の 98 億 6 千万円、営業利益は、前期比 59.0%増の 34 億 5 百万円、経常利益は、前期比 44.2%増の 37 億 2 百万円となりました。当期純利益は、前期比 63.3%増の 23 億 5 千 5 百万円となりました。

前年度との比較において、受注工事高、完成工事高、当期純利益、の増加に加え、繰越工事高も 13.7%の増加となりました。

2015 年度決算のポイントとしては、次の四つが挙げられます。

- ① 連続 6 期の受注増により、前期達成した連結受注工事高 1,000 億円を継続
- ② 完成工事高は、目標値を概ね達成
- ③ 連続 5 期の当期純利益増
- ④ 連続 6 期の繰越工事高増

これら四つの項目については従来から推進する以下の取組が定着したことによるものです。

- ・質と量、すなわち採算性とボリュームのバランスを見極めた戦略的受注
- ・ワンストップソリューションの体制推進
- ・海外分野での事業深耕
- ・協力会社を含めた「チームSNK」による工期遅延対策

【 2015 年度 連結受注実績 】

(単位:百万円)

分野区分			2014 年度	2015 年度	前年比
個別	国内	新築	39,770	43,410	(+9.2%)
		リニューアル	42,500	42,403	(△0.2%)
	一般	原子力	9,692	9,388	(△3.1%)
連結	新日空サービス		2,931	2,432	(△17.0%)
子会社	海外現地法人		5,947	8,506	(+43.0%)
受注工事高(合計)			100,840	106,139	(+5.3%)
新築分野			47,341	50,720	
リニューアル分野			53,499	55,418	
保健分野			61,799	59,573	
産業分野			39,041	46,565	

【 2015 年度 連結損益実績 】

(単位:百万円)

勘定科目	2014 年度	2015 年度	前年比
完成工事高	86,508	97,329	(+12.5%)
完成工事総利益	8,334	9,860	(+18.3%)
	9.6%	10.1%	
販売費及び一般管理費	6,192	6,455	
	7.2%	6.6%	
営業利益	2,142	3,405	(+59.0%)
	2.5%	3.5%	
経常利益	2,567	3,702	(+44.2%)
	3.0%	3.8%	
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,442	2,355	(+63.3%)
	1.7%	2.4%	

2. 2016 年度経営計画について

1) 当社グループを取り巻く環境

まず、当社グループを取り巻く環境ですが、名目建設投資の推移予測は、2016 年度全体では、2015 年度に比べ、マイナス 0.8%の 49.6 兆円と予想されておりますが、当社グループの主要な対象である民間非住宅建築投資額については、前年比 0.3%の増、9.0 兆円が見込まれており、2015 年度と同等の活性化が期待されます。

受注環境としては、引き続き東京五輪関連のインフラ事業を始め、民間による建築計画の増加、製造業の国内回帰などが期待され、建設投資は活発になることが見込まれます。

反面、様々な建築計画が接踵することと、建設業界の構造的問題でもある施工人員不足、技術者不足が中長期的な課題となっております。人員リソースの確保と適切な配分、無駄を省いた生産性の大幅向上、工期遅延対策は企業業績の面からは避けて通れない課題であり、引き続き積極的に取り組んでまいります。

2) 2016 年度経営計画

このような状況下、当社グループは「究極真価プラン 2016」(2014～2016)の三つの基本課題を継続して掲げ、「**社会貢献と企業価値の向上**」を目指すとともに、業績向上に注力します。

① 顧客信頼度の究極真価

- ・ ワンストップソリューションの体制推進
- ・ アジアを拠点としたグローバル戦略の推進
- ・ リソースの大胆な傾斜配分

② 技術の継承と先進技術の訴求展開

- ・ 培った技術の継承と高度化推進
- ・ 顧客ニーズ、事業ニーズに基づく技術開発の強化

③ コーポレートガバナンスの強化と機動力のある組織体制

- ・ コーポレートガバナンス、コンプライアンスの強化
- ・ 機動力のある組織体制
- ・ 女性が活躍できる職場風土作りの推進

3) 連結受注計画

(単位:百万円)

分野区分			2015年度 計画	2015年度 実績	2016年度 計画
個別	国内 一般	新築	36,700	43,410	46,000
		リニューアル	49,000	42,403	45,500
	原子力		9,000	9,388	10,000
連結 子会社	新日空サービス		3,300	2,432	3,500
	海外現地法人		7,000	8,506	7,000
受注工事高(合計)			105,000	106,139	112,000

4) 連結完工計画

(単位:百万円)

分野区分			2015年度 計画	2015年度 実績	2016年度 計画
個別	国内 一般	新築	33,500	42,014	44,500
		リニューアル	48,500	39,378	42,000
	原子力		8,500	8,691	9,000
連結 子会社	新日空サービス		3,000	2,508	3,500
	海外現地法人		6,200	4,738	7,000
完成工事高(合計)			100,000	97,329	106,000

5) 連結損益計画

(単位:百万円)

	2015年度 計画	2015年度 実績	2016年度 計画
完成工事高	100,000	97,329	106,000
完成工事総利益	9,600 9.6%	9,860 10.1%	10,600 10.0%
販売費及び一般管理費	6,700 6.7%	6,455 6.6%	7,100 6.7%
営業利益	2,900 2.9%	3,405 3.5%	3,500 3.3%
経常利益	3,100 3.1%	3,702 3.8%	3,700 3.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,700 1.7%	2,355 2.4%	2,200 2.1%

-以上-